

就活生が
面接を受ける前に
知っておかなくては
いけない **7** つのこと。

～これを知らずに面接を受けるのは危険です～

まえがき

就活について皆さんはどのようにお考えですか？「最近の不景気で人気の企業への就職はとっても大変」「競争が激しくて厳しそう」と思っているかもしれません。ですが、今、あらためて「就職」について企業も学生も見直すべきときです。

一昔前のように、ただ自分の学部を卒業すれば就職が見つかり、まじめに働いていれば定年まで迎えられるという時代は終わりつつあります。それとは逆に近年は「本当に意欲のある学生を採用したい」「将来、活躍している人材を希望している」という採用担当者の声が多くなってきています。

本当に企業のためになる人材を発掘する—これは採用される立場の学生から考えると、一見厳しいように思えてしまうかもしれません。ですが、逆説的に考えるならばそれだけ採用する側も、そして採用される学生の皆さんの立場からも真剣に「就職するとはどういうことか」を突き詰めることで、ミスマッチを防ぎ、本当に働き甲斐のある職場を見つけることにつながるのです。

自分の人生については、皆さんが自分自身で切り開いていかなければなりません。就職活動はその第一歩です。このような厳しい時代だからこそ、しっかりと自分を磨き続けている人たちには確かな評価をされる時代でもあり、チャンスでもあるのです。皆さんが新しい社会人としての第一歩を踏み出すために、私も少なからずお力になりたいと思っております。

高安 秀明

(株) ジーズコンサルティング 代表取締役。
多数の企業の採用に関わり、面接した学生は
6000人以上にのぼる。

目次

- そもそも面接をするのは、何のため？
- 面接で聞かれる質問は、決まっている。
- 少しの工夫で簡単にできる！第一印象を良く見せる技。
- 集団面接の評価、人事はここを見ている！
- グループディスカッションの目的を理解していますか？
- その言葉遣い、アウトです！
- 圧迫面接でもあわてずに！こんな返答が有効です。

そもそも面接をするのは、何のため？

○面接をする理由は何のためなのか？

そもそも、何のために面接をするのかということは、学生の皆さんであれば疑問に思うかもしれませんが、就活をする上で、面接は避けては通れない関門であり、現在は就職難で厳しい状況となっています。

このような中でなぜ、企業が時間やコストをかけてまで面接をする最大の理由とは、書類や履歴書だけでは分からない情報を面接で取得したいからなのです。

どうしても履歴書などの書類では実際にあなたがどのようなことを考えているのかが分かりません。まして、志望動機やあなたへの仕事にかける思い入れなどは書類の中からは全部を汲み取ることが出来ないからです。

そのため、採用担当者はそのようなことについてあなたがどのように考えているかを知りたく思っているのです。

面接では、あなた自身の体験や思いを話す機会が多くなり、必然的に個性や仕事への情熱が評価されるようになります。

そこで、企業側としては「本当にわが社に就職してやっていけるのか？」ということを真剣に検討するのです。

ここで、もししっかりあなたが面接の対策をしていれば、ほかの学生よりずっと有利な立場に立てるのです。

面接ではどれだけしっかりと準備をしてきたかが採用に大きく左右するだけに、しっかりと事前準備をしておくようにしましょう。

○面接にはそれぞれの段階がある

面接にはその過程で採用担当者も違い、それぞれの段階があるということをおぼえておいてください。

一般に企業では面接を2回から3回、多い企業になると4回以上あることもあります。ですが、面接はそれぞれのステップがあり、それによって企業側の面接を行っている理由も違うということを知っておいてください。

●一次面接

- ・ 集団面接やグループ討論
- ・ 人事部の若手社員やリクルーターが面接に対応
- ・ 第一印象や協調性、基礎的な資質などを評価

一時面接はなるべく多くの学生を通過させたいと思っているので、集団でのあなたの振る舞いや協調性などが評価されています。

●二次面接

- ・ 個人面接の形式で行われる
- ・ 人事部の課長や各部署の担当者が面接する
- ・ 論理性や的確な表現力、積極性などが評価される

二次面接では一時面接よりもずっと掘り下げた質問内容が多くなり、しっかりと説得力のある回答が求められるようになります。

●三次面接（最終面接）

- ・ 会話、雑談の個人面接形式
- ・ 人事部長や役員クラスが対応する
- ・ 状況判断能力や将来性などが評価される

三次面接では、これまで以上にあなたの個性や人柄、仕事への情熱が評価されます。事前にいかに自分のことをしっかりと分析し、どのようなことを聞かれてもよいように心構えしておくことが大切になります。

○面接の形式にはパターンがある

面接には採用する企業がどのようなことを学生から引き出したいかによって、さまざまなスタイルがあります。以下にその面接の方法と対策を記述しているので参考にしてください。

・個人面接

もっともオーソドックスなスタイルで、現在も主流となっている面接の方法。

学生一人に対して面接官が一人から数人が対応する。

予め用意された質問をする場合と、一問一答形式のように会話のキャッチボールをすることがあります。

・集団面接

最近、多くの企業が採用するようになってきた面接の方法。

主に一時面接など初期の段階の面接で行われることが多くなる。

学生の自主性や協調性などが求められるなかで、意外と自分の発表時間が短いことがネックとなります。

・グループディスカッション

集団面接の一つですが、テーマがあらかじめ用意されているという違いがあります。

面接官は一人から二人で学生が5、6人というケースが多い。

集団で討論することによって、論理性や説得力などが試されることとなります。

・ディベート

集団面接の一つですが、賛成派・反対派の学生をあらかじめ決めておいて討論する方式。

テーマは現在も社会で論議されているものが多く、社会的な一般常識や知識が求められる。

話の論理性や持論の組み立て方などが評価されることとなります。

・グループワーク

学生5、6人を1グループとして、決められたテーマに対して討論が求められる形式。

ディスカッションと違って、具体的な手法が求められたり、個性が必要となったりします。

・プレゼンテーション

学生が面接官の前で決められたテーマで発表する形式。

あらかじめ準備しておける反面、準備次第で評価が大きく分かれることにつながります。

○学生を評価する面接官のタイプ

採用担当者とは一概にいても、それぞれの部署によって役割が違うことを覚えておいてください。

新卒採用の初期の場合ですと、本面接前の採用担当者にはOB / OGが担当することがしばしばあります。この場合ですと、一見してOB / OG訪問のように見えますが、採用に関する権限を持っていることがあるので注意が必要です。また、本面接の実施日に2～3回ほど面接の応援にくる各部署の管理職や派遣できている面接官が対応している場合もあります。

これらの採用担当者とは雰囲気が違うのが、各部署の責任者や役員面接などがあります。各部署の責任者の場合、自分の部署で働ける学生を選考しようとしているので、その採用基準は厳しいこととなります。また、自分の部署で仕事が勤まりそうか、責任を持って仕事を続けてくれるのかなどを見られることとなります。

役員の場合は、会社での協調性や将来性、会社の社風にあうかどうかという最終的な決定権を持っています。

これらを意識して、自分の良い点をどのようにPRできるかをしっかりと事前に把握しておくことが大切です。

○面接官はあなたしかもっていない情報がほしい

面接を行う大きな理由の一つには、あなたしか持っていない個性を引き出したいために、面接を行うことがあります。

企業側にとってはどのような学生を募集しているかというのは社風によっても大きく違いますが、この点はある程度事前に調べることができます。そうなれば、どのような経験がこの企業にとって評価されるかをあらかじめ準備しておけばよいわけです。

そして、実際に面接で質問されたなら、あなたしかこれまでしてこなかったような経験が評価されるわけです。この情報がほしくて企業側は時間をかけて面接を行っているので、履歴書に記述した以外にもPRできる点をうまくまとめておくことが大切です。

「自分はねばりづよい性格」「みんなと協調性を保って何かをやりとげることが得意」などと単に自分の思っていることの感想にならないように注意してください。

それよりも、より具体的な例などをあげて、実際にどのようなことを考えてその行為に取り組んできたかを話してください。可能であれば、事前に何パターンか用意してそれらの話を誰かに聞いてもらい、悪い点がないか、説得力があるかどうかを確認してみてください。採用担当者もあなたの話が面白ければ、それだけ記憶に残ることになりますから、採用に有利に働くこととなります。

○履歴書では見えない欠点が見られている

面接で気をつけなければならないのは、自分が意識していないような欠点が注目されているということです。

これには面接の準備をしっかりと繰り返すことによって防ぐことができますが、それらが十分でないと目につきやすくなってしまいます。

特に服装などは最初に目立ってしまうので、あらかじめ完璧に準備をしておく必要があります。

次に会話の進め方や質問の答え方ですが、はっきりと聞きやすく、明確な答えをするように心がけてください。

採用担当者は基本的に履歴書を見て質問されることになるので、履歴書に書かれていることははっきりと答えられるようにしておかなければなりません。

そのほかにも、面接では緊張してしまうと、自分が気づいていない癖などが出てしまいがちです。どんなときも冷静に、しっかりと相手に聞かれたことを答えるように心がけてください。

そして、自分がどれだけ仕事に対して情熱を持っているか、一生懸命働きたいかなどはしっかりとアピールしてください。

企業側が一番求めていることはあなた自身の「やる気」であり、その動機というのはあなた自身しか説明できません。

ただ、社交辞令のように準備していた答えではなくて、あなた自身が本当に心から思っていることを語ることによって、相手にも伝わるのです。

面接で聞かれる質問は、決まっている。

○面接で聞かれる質問にはパターンがある

面接で聞かれることにはパターンがあります。

もちろん、面接にも一次、二次、三次とあり、それぞれに企業側で役割を用意していることがあるのでその趣旨は違ってきます。ですが、あらかじめあなたのほうで準備しておくことは基本的に変わらないので、その点をはっきりと覚えておいてください。

あなた自身の履歴については、すでに履歴書に書かれていますが、その中で特に目を引くことは質問される傾向があります。その点についてはあらかじめうまく説明できるように準備しておくことが必要ですし、それから採用までにプラスの評価となることが望ましいです。

また、「学生時代、どのようなことに力を入れてきたか」「学生時代に専門としてきたことは何か？」などはよく聞かれる項目です。これらの準備は面接の対応として一通りしっかり把握したうえで、模擬面接などでしっかりと答えられるように準備しておいてください。

次に志望動機についてですが、これについてはなぜ、企業に応募したのかという非常に重要な項目になります。また、志望動機は人それぞれなので、あなただけの理由が必要ですし、採用に大きく関わる重要な内容です。

あなたは採用されて働くとしたらどんなことをしたいのかを、具体的に示すことが肝心です。そして、どのようなことにチャレンジしたいのか、将来はどのような人物になりたいのかなど相手にもイメージしてもらえらるような回答をすることが大切です。

○面接は会話のキャッチボール

面接は一方的に採用担当者が質問するだけでなく、ある程度あなた自身からも答えを返せるようになることが必要です。もちろん、質問されるわけですからどうしても受身的になってしまうことはやむ終えないですが、それでも会話を楽しむくらいの余裕は必要です。なるべく友好的な雰囲気のほうが当然ながら、相手の印象もよいですし、あなたの印象も違ってきます。

面接では志望動機や自己PRなどがきっかけとなって会話がはじまることありますが、なるべく具体的に答えるように心がけてください。採用担当者もあなたしかしてこなかったような経験を聞きたいわけですから、どのようなことを聞かれているのかをまずはしっかりと受け止めることが肝心です。そして、採用担当者の質問をしっかりと理解したうえで、その内容に自信を持って答えるだけでずいぶん印象が違ってきます。

面接は会話のキャッチボールとはよく言われますが、一方的に質問に答えるだけではどうしても印象が薄れてしまいます。それよりも質問の趣旨がどのようなものだったかを理解したうえで、質問の意図をしっかりと汲み取って返答することが大切となってくるのです。

○媚びるよりも「売り」を前面にだす

面接では自己PRを聞かれる機会が必ずといってよいほどありますが、会社に媚びるような答えにならないことが大切です。

どうしても初対面であり、採用される側という立場が弱いという心細さからこびるような答えをしてしまうことがあります。ですが、大切なのは、あなた自身しか持っていないような能力や情熱というのが採用では非常に評価されるということを忘れないでください。

心がけることとしては自分の「売り」が何なのかをしっかりと事前に把握しておくことです。自分がどんな特技があり、どんな経験があるのか、その企業で働くことで有利になると思うことはしっかりと伝えることが肝心です。そして、それが他の人が持っていないようなことならば、より具体的に説得力のある形で伝えられるように準備しておくことも大切です。

また、特に目立った能力や経験が無かったとしても、「本当にこの仕事に就きたい」という情熱は必ずといってよいほど評価されます。仕事への情熱というのは、企業の採用では非常に重要な項目なので、この点もあなただけの「売り」に十分になります。

それには、応募した企業の事業などをしっかりと調べたうえで、将来就職したならばこのような分野にもチャレンジしてみたいなど、あなたの意見を伝えてください。何事も積極的な姿勢や、時間をかけてやったことということは必ず後でプラスとして返ってくるのです。

○あなたが働く姿をイメージしてもらおう

面接での質問であなたの将来像について聞かれることがあります。あなたが企業に就職して、実際にどのように働けるかということは、採用する企業ではとても大きな関心ごとなのです。これについて、あなたはどのようなイメージを持っているのかをしっかりと採用担当者に伝える必要が出てきます。

それにはあなた自身からもどのような働き方をしたいのかということ、イメージできるような材料を提供することが必要です。

「私はこのような部署にチャレンジしてみたい」「○○のようなことに興味関心があって勉強しています」などと積極的に発言するようにしてください。

次に学生でやってきたことで仕事につながるようなことを話してみることも有効な手段です。「サークル活動のイベントのためにこのような下準備をしてきた」「活動資金のお願いでOBなどに電話や連絡を取った」などの経験を思い出してみてください。

そして、それが仕事に役立つような経験であれば、あなたの評価は確実にアップするはず。あなたが働く姿が採用担当者にとってイメージできるかどうかということは非常に重要なことであり、それを手助けできるような経験をあらかじめ準備しておくことが重要です。

○自分の弱点についてよく理解する

面接で聞かれないことの一つに「自分の弱点」があります。自分の長所よりもむしろ弱点のほうが実は答えづらいもので、これについてはしっかりと自分である程度意識しておくことが大切です。

「こつこつ作業を進めるのが苦手」であったり、「人前で話すと緊張してしまう」などはよくある典型です。

例えば「こつこつ作業を進めるのが苦手」であるならば、そういう面があるので自分で飽きないように工夫しているとか、常に新しいことに挑戦するように心がけているなど、ポジティブな視点が必要です。

また、「人前で話すと緊張してしまう」などもそうならないために、人よりも事前準備をしっかりとしているなどの対策を語ることです。

このように、どうやって弱点についてあなたが克服しようと努力しているかはとても採用担当者にとっても感心があることなのです。

それだけに、より具体的な方法であなたがそれらについて克服しようとしているかを話すことはとても重要です。

あなたがしっかりと自分の弱点を理解して克服する努力の道筋を定めているのであれば、それほど心配する必要はありません。実際にどのように克服するための努力をしているのかさえ、しっかりと伝えればそれほどマイナスに評価されることもなく、むしろプラスのイメージになることもあります。

少しの工夫で簡単にできる！

第一印象を良く見せる技。

○面接は第一印象で決まる

面接では第一印象はきわめて重要な要素を持っています。

まず、元気がなかったり、服装が清潔でなかったりする場合はまず次のステップに進むことが難しくなります。逆に「ああ、この人なら働いてほしいな」と思うような希望を持ったような人は評価されていきます。

そのためにも服装などの事前準備をしっかりと自信を持って面接に望めるようにしておくことが肝心です。

「第一印象で面接は決まる」といえるほど、人の最初の印象というのは終始ついて回るものです。そのため出来る限り、自分自身でも友好的に、「この会社で働きたい」という気持ちが採用担当者に伝わるようにしなければなりません。

それがしっかりと伝わるのであれば、あなた自身の評価というのは格段にあがりますし、採用も有利に働きます。

第一印象はあなた自身の面接にかけるモチベーションであったり、あなたの意識の問題に左右されている部分が多くあります。それを意識して、しっかりとあなたの仕事にかける意欲や情熱をうまく伝えられるようにしておいてください。

また、それを裏付けるためにも、しっかりとその企業の下調べをしておくことであなたの自信にもなりますから、出来る限り調査には時間をかけてください。

○第一印象を良くするための準備

面接前に第一印象をよくするには以下の点に注意することが肝心です。

- ・身だしなみを整えること。清潔感を大切にする。

髪型、服装、爪、足元は要チェックです。鏡を見て確認しましょう。

- ・表情は笑顔で豊かに。リラックスかつ適度な緊張感を持ちましょう。

人前で緊張するのは当たり前ですが、その緊張をコントロールできるかどうかも重要なビジネススキルとみなされます。

- ・相手をまっすぐ見る。

斜め上方、下方、を見つめて話をする人が多いです。相手の目を穏やかに見て自信を持って話しましょう。

- ・はっきりとした口調で、明快地話す。

小さ過ぎる声、あいまいな話し方は良くありません。素直に自己アピールすることを心がけてください。

- ・相手の話を最後まで聞き、しっかりとした回答を心がける。

面接官は、意図を持って質問しています。すなわち、期待する回答があるのです。

それは回答内容というよりもその回答の仕方、底にある考え方です。それを意識していれば、的外れな回答は避けられます。

- ・背筋を伸ばして、姿勢を正して座る。

自分ではまっすぐ座ってるつもりでも、斜めにかしいでいたり、背中が丸くなっている方がいます。面接前に、周りの人に確認してもらいましょう。

○第一印象をよくするには？

第一印象をよくするには、仕事が出来そうな人物だと思ってもらうことが大切です。

そのためには、自分がまず社会人になりきり、どうすればよいかを真剣に考えてみてください。採用担当者にとっては学生をを見た瞬間、「明るく元気な人だな」「この人、動作がきびきびしていて仕事できなそう」「礼儀正しく誠実そう」などと思ってもらうことです。

ほとんどの第一印象は瞬時に様々な要素が重なって、第一印象が決められてしまいます。人は見かけでは決してありませんが、このような場合では、服装や態度、話す声のトーンや表情など、その人の立ち居振る舞いがその後のイメージを左右してしまいます。

面接などにおける採用担当者の第一印象は、面接者が入室するところから始まり、椅子に座り、話すくらいまでの数分で決まるといわれています。さらに、この第一印象は面接が終わるまで変化しないということが多い傾向にあるのです。

これは、最初に面接官に良い第一印象を与えることができれば、最後まで面接者にとって有利に展開していくといえます。

ですが逆に、悪い第一印象を与えてしまった場合は、挽回することが困難といえるでしょう。そのようなことがないためにも、事前にしっかりと心の準備をしておくことで、よい印象を持ってもらうことにつながるのです。

○自分を理解してもらおうという姿勢を作る

面接ではどうしても、自分を「評価され、選別されてしまう」という不安感や緊張感があります。ですが、逆にあなたのことをよく知ってもらい、履歴書などでは分からないことを評価してもらい、売り込めるチャンスでもあるのです。そのことをしっかりと意識して「自分のことを理解してもらおう」という気持ちの準備をしておくことです。

「相手に自分を理解してもらおう」「良いコミュニケーションをとろう」という姿勢は自然に雰囲気・マナーに現れます。身なりを整えるのはもちろんですが、面接官と良いコミュニケーションをとろうという姿勢が「面接で第一印象」においてよい結果につながります。

あなたのことを本当に理解してもらうためにはやはり直接会ってあなたと良い点を伝えなければなりません。

そのようなことを踏まえて友好的な雰囲気ですぐに接する限り、あなたのことについて悪いイメージが持たれることはないでしょう。

そうして、「自分のことを理解してもらい、企業でも貢献したい」という気持ちを伝えることです。人は自分のために働いてくれる、貢献してくれる人については悪いイメージは持ちません。そのような人物になれるように、十分にマナーや服装には気をつけて友好的な振る舞いをすることが肝心です。

○面接でよくない癖やしぐさ

面接ではしては自分が意識していなくてもしてはいけないような癖やしぐさがあるものです。それらには十分に気をつけて、しっかりとそのような癖がある場合には出てしまわないように気をつけておくことが重要です。

以下にそれらについてまとめてあるのでよく確認しておいてください。

●マイナスイメージとなるくせ

「くせ」として出がちなことには、特に注意しましょう。
練習をして、身近な人に見てもらおうとよいでしょう。

- ・ 話しながらの手遊びやしぐさ
- ・ 髪をかきあげたり、顔をさわったりする
- ・ 足を組んで座る
- ・ ぼそぼそとした小さな声、はっきりしない答え方
- ・ 視線が一つに定まらない
- ・ 考えるとき、目が宙をさまよう
- ・ 時計を気にする、ちらりと見る
- ・ 答えに対するオーバーアクション

このほかにも模擬面接を受けてみて、そのような動作がないか確認しておきましょう。
そしてもし、指摘されたのであれば、十分に気をつけるようにして、万一本番では出てしまわないように気を配ることが大切です。

集団面接の評価、 人事はここを見ている！

○集団面接の流れ

集団面接は、複数の受験生（一般的には3～8人程度）が同時に面接室に入室し、順番、もしくは指名式や挙手式で面接官の質問に答える形式です。

個別面接との評価の最大の相違点は、同時の他の受験生が面接しているため、ほかの学生と比較されるという点です。

質問内容などは個別面接と大差ないこともありますが、同一の質問を全員にすることもあれば、それぞれに違う答えが返ってきます。

そのようなときに自分の答えが周囲の意見に左右されて、自信が無くなってしまわないように心の準備をしておいてください。

気をつけるべき点は次のようなことがあります。

- ・面接倍率の高い企業を受験する場合は、面接官の印象に残らなければ次のステップに進むのは難しくなります。

例えば全員に同一の質問をされた場合、前の人と同じ返答ではなく、何らかの独自性ある意見を述べることを心がけてください。

- ・独自性は集団面接では非常に重要ですが、独善的になってはいけませんので気をつけてください。他の受験生の意見にも耳を傾け、同調できるところは同調すべきです。

同調した上で自分なりの独創的な見解を付け加えることができると評価が高くなるので、自分の意見や見識をくわえるようにしてください。

○集団面接で評価される項目

集団面接は何人かの学生が集まって行うため、ほかの学生との違いがはっきりと浮き上がるといことがあります。

特に以下の点は評価される項目ですので、意識して質問に答えるようにしてください。

・リーダーシップ(指導力)

グループを統率して意見を引き出し、一つの結論に到達させることができるか、意見をしっかり集約しているかなど。

判断力や熱意、計画性が求められることになるので、討論の場合には自分の意見について客観的な視点を忘れないようにしましょう。

・協調性・社会性

グループ全員と協調していけるかどうかは、自分の意見ばかりに固執していると見失いがちです。討論の流れや他人の発言をよく見極め、片寄りなく討論を進行していくことが必要となります。これがそのまま会社や職場での適応力として評価されます。

場合によっては適度な独立の視点などもはっきりとすることで、評価が高まります。

・貢献度

与えられた課題の解決に向けて、どれだけ効果的な意見が出せたかはとても重要な評価の項目です。

課題解決に必要な知識や一般社会の常識など、常日頃から問題意識をもっているかどうかで差がつくので日ごろから新聞やニュースに関心を持つようにしてください。

ただし、一人で意見を言って結論つけると独善的になりやすいので注意してください。

○集団面接はみんなで乗り越える

集団面接は「自分だけが合格したい」という気持ちが出てしまうと、どうしても答えが偏ってしまったり独自性が強くなってしまいます。

ですが、集団面接では協調性も求められるので、出来ることなら皆で乗り切ろうという気持ちが必要になってきます。どうしても全員が緊張してしまうと、社交的な答えになりがちですが、あなた自身が積極的のほかの学生にも心を開くように努力してください。

出来るだけ、友好的に振舞うということも集団面接では求められるスキルのうちの一つであり、全員で乗り切るような気持ちが必要なのです。

ですから、これまで出た意見についても一方的に否定するのではなく、良い点は評価し、悪い点についても自分なりの意見を付け加えるなどをしてください。けっしてネガティブやアウェーのような状態にならないように心がけ、出来るだけ自分のホームに近い状況を作り出すことが肝心です。

そうすれば全体としても明るい雰囲気になりますし、自然とあなた自身の集団面接の輪の中心になれることになります。どのような状況でも自分から何か積極的に振舞わないと、どうしても受身になってしまいがちです。

集団面接では、強引すぎるようなことが無い限り、自分が輪の中心なるように友好的に振舞う気持ちを忘れないで下さい。

○集団面接のコツ

この面接の特徴は、初めて会う学生同士が同じ状況で質問やテーマに向かって回答する、という特殊な状況ということです。

どうしてもこのような経験は普段ではないので、緊張してしまう傾向がありますが、逆に同じ立場の学生がいるのでのびのびと自分の意見を出すことを心がけてください。

集団のなかで面接志望者の協調性や社会性、発言力や判断力などがどれほどか、面接担当者たちに評価されます。

たとえば先頭に立った場をしきれるリーダーシップのタイプか、みんなのまとめ役となるタイプかなど、面接志望者たちの個性を判断されます。応対するときのコツには他の面接志望者の意見を尊重しながら、自分の言いたいことを主張するというバランス感覚が大切です。

相手の意見を批判したりせず、議論全体の雰囲気を考え、スムーズに進行することを常に考えましょう。

また、無理にリーダーシップをとろうとせず、自分の個性にあった役回りを演じ、面接担当者にアピールするとよいです。

自分が目立つことばかり考えず、適度なバランス感覚を持って、自分の意見をはっきり伝えることで評価が高まります。

もし、発言が最初であるならば、自分の意見に自信を持って堂々と答えることで、皆の意識を集中させることがあります。また、会話の中にも具体例などを取り込むことで、よりいっそう説得力が増すので、意識して話にくわえるようにしてください。

○総合的な視点を忘れずに

集団面接はどうしても同席する学生がいるため、意見が重なってしまうことがあります。ひとつの質問に対し、端から順番にひとりずつ答えていくことが多いので、面接官から見ると、学生の比較がしやすいというメリットがあります。

これがプレッシャーになってしまい、自由に自分の意見がいえなくなってしまうことがあります。ですが、逆に学生の立場から見ると、ほかの学生といかに差別化できるかが、ポイントとなるので自分らしさを忘れないでください。

だからといって、強引な結論や奇をてらった回答をする必要はまったくありません。

仮に、前の学生に自分と同じ意見を言われてしまった場合でも、自分も同じ意見であることを最初にことわった上で、自分なりの言葉で堂々と意見を述べるようにしましょう。面接官が見ているのは、何を発言するかだけではなく、総合的な視点を持っているかなども評価の対象となっているのです。

何を、どのように発言したか、その論理性や態度など、人格を総合的に見ていることを忘れないようにしてください。

そして、自分の回答にどれくらい自信を持っているのか、発言した内容に一定の責任を持つことが出来る人物なのかなどが評価されています。

ただ、意見に同調するだけではなく、自分なりの回答と視点を持つことで好評価につながります。

グループディスカッションの 目的を理解していますか？

○グループディスカッションで求められるのはチームワーク

グループディスカッションで測定されている力は「協働力（チームワーク）」です。

コミュニケーション力は通常の面接でも測定可能ですが、チームワークは集団の場合により発揮されることとなります。

また「統率力（リーダーシップ）」は即席メンバーでかつ短時間、そして未知の課題の中での発揮は社会人でも困難な課題なのです。

もちろん、コミュニケーション力も、リーダーシップも、グループディスカッションで測定可能ですが、特に注目されて測定されている力は「チームワーク」を中心としている企業が多いようです。

「チームワーク」で達成すべき要件は以下の3つに絞られます。

1. 自分の役割

自分がどのような役割、振る舞いをする事でチームに貢献できるか（司会、協調性、質問の仕方など）

2. チームメイトの役割

チームの一員がどのような役割を担っているか、的確に理解しているか

3. チームの目標

チームがクリアすべき課題をしっかりと理解して行動しているか

をはっきりと意識することです。

この3つの条件をクリアすることを心掛けてグループディスカッションに挑むことが、「チームワーク」を発揮することに繋がり、グループディスカッション突破することにつながります。

○グループディスカッションの意義

最近、グループディスカッション、もしくはグループワークを選考に用いる企業が増えてきています。

そしてこの選考が苦手だという学生も多いのが現状で、さまざまな対策が講じられています。では、グループディスカッション・グループワークとは一体何だろうかを考えてみます。

・グループディスカッション

提示された課題についてグループで話し合い、他人の考えを受け入れ、自らの考えを修正し、時間内により良い成果を作り上げる作業となります。

企業でいう「会議」「ミーティング」にあたり、実際に企業に就職したときに求められる必須の能力の一つです。

・グループワーク

グループディスカッション同様、提示された課題についてグループで話し合い時間内により良い成果を作り上げる作業となります。

グループディスカッションとの違いは、ワークシートが用意されていたり、発表形式が決められていたりなど、ある程度進め方が準備されているところにあります。

○グループディスカッションの構図

グループディスカッション、グループワークは実質的に両者はそれほど大きく変わらないし、採用担当者が見ている点も同じ視点から評価することになります。

ですが、忘れてはならないことは、グループディスカッション（グループワーク）は面接とは全く違う選考方法であるということです。

最も違う部分は、面接は「採用担当者・学生」ですが、グループディスカッション（グループワーク）は「学生・学生」であるということです。よって、面接とは少し違う視点で「企業が求める力」がチェックされているということになります。

グループディスカッションで測定される力は主に「チームワーク」となってくるのです。

ここで発言する上で大切なことは「奇抜な意見」ではなく、「自分の役割」「他人の役割」「チームの目標」の3つをすべて達成することを心がけてください。

最後の「結論」はこの論議の中で常に大きく変わる可能性があるので、自分の考えだけに固執せず、柔軟な対応が出来るようにしてください。それよりも論議の「プロセス」が大切であり、常にチームの輪の中心になって発言し、協調性を保てるように振舞ってください。

○グループディスカッションでの論議

グループディスカッションはテーマを与えられて、全員に議論をしていくことでその過程を評価されることとなります。議長や書記なども決め、グループとしての結論を出させることも最近ではしばしばあるようなので、模擬面接などで一度慣れておくことをお勧めします。

集団の中におけるその学生のキャラクターを見分けることも重要ですが、必ずしもリーダーシップをとる人間が一番評価されるというわけではありません。

アイデアに優れているもの、全体の話をもとめるのがうまいものなど、評価のポイントはさまざまとなります。

無理して自分の意見をつくらう必要はなく、のびのびと論議に参加することで自然とあなたの意見は映えてくるはずです。

とはいえ、一言も発言しないのでは評価対象にもならないので、そこは上手に話しに参加するよう心がけなければなりません。

企画の立案、商品設計など、みんなでひとつの作業を行わせる面接が「グループワーク」となり、グループディスカッションと違い作業が伴います。グループディスカッションと相通ずる点も多いですが、協調性は特に大きなポイントとなります。

何か一つの目的が与えられ、どうすれば課題が解決できるかということは非常に大きな要素となります。

ここで論議するときには、課題解決に向けてどのようなことが必要なのかを皆で協議しながら目的に向かって進んでいくことが大切となるといえます。

○グループディスカッションで、企業が見極めようとしていること

グループディスカッションで求められることを3つに分類すると、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力が挙げられます。

この中でグループで課題を与えられている点を考えれば、対人基礎力、対課題基礎力の両方は他の学生と比較されて測定されることになります。

短時間（1時間以内）のグループディスカッションであれば、ほぼ対人基礎力が評価されていると考えてよいでしょう。

対人基礎力は大まかに三種類があり、次の通りです。

・親和力（コミュニケーション力）

他者との豊かな関係を築く力。1対1のコミュニケーションに関する基本スキル。

初対面の人でも和やかな関係を作る、相手の立場に立って考える、相手の話に興味を持って聴く事ができる。

このほか、相手の感情を受け止め理解できる、自分と異なる意見や価値観を尊重できる、などが求められます。

・協働力（チームワーク）

目標に向けて協力的に仕事を進める力。

集団の中でのコミュニケーションに関する基本スキル。

集団の中で自分の役割を果たしつつ周囲と協力する、自らすすんで情報を周囲に伝え周囲からも有用な情報を得る、周囲の状況に気を配りタイミング良く手助けができるなど。

言い換えれば「その場の雰囲気や空気が読める力」となります。

・統率力（リーダーシップ）

場の雰囲気を理解し、組織を動かす力。

集団をまとめつつ、目標達成するために欠かせないスキルです。

話し合いの場に積極的に参加し発言する、意見が対立しても妥協せず粘り強く主張できる、議論が活発になるように自ら働きかけるなどが挙げられます。

実際にはビジネスの世界でも求められるかなりハイレベルな力で評価は高くなっています。

その言葉遣い、アウトです！

○なれなれしい言葉遣いは避ける

就職の面接、緊張してしまいますし、どうしても自分が言いたいことを全部伝えられないかもしれません。ただでさえ緊張しているので、言葉遣いがあやふやふになってしまう場面もあるかもしれません。

しかし、緊張していることは採用担当者にも伝わっているので、それ自体がマイナスになることはそれほどありません

一生懸命、自分の言葉で話をしていることが伝われば、きちんと評価してくれるはずです。

では、どのような面接での言葉遣いが良くないのでしょうか、あなたはしっかりと自分のことを意識していますか。

まず、なれなれしい言葉遣いはどうしても評価が悪くなってしまいます。

敬語を完璧に使う必要はありませんが、相手の採用担当者の気分が害するような言葉遣いは決してしないようにしてください。緊張してある程度どもったり、かんだりするのは問題ないでしょう。

しかし、言葉遣いがなれなれしいのは、相手に不快感を与え、それだけで目立ったマイナス点となってしまいます。

いくら友好的に振舞おうとしてもどうしても印象が悪くなってしまうことは避けられません。面接は、公式の場であり、採用面接のあなたを見て、将来、ビジネスの現場にいるあなたを想像します。

ビジネスの現場で、初対面の相手になれなれしい話し方をすることは許されないことであるからこそ、慎重になってください。

○卑屈な言葉遣いは避ける

面接試験は、企業と受験者（学生）とがお互いに選び合う場であり、学生が一方的に卑屈になることは全くありません。どうしても気持ち上、面接では気圧されていしまうことがあります。自分の答えには堂々と答えるようにしてください。

今までの経験、考え、そして、この面接のために十分準備しているという自信をもって、『正々堂々と明るく真摯に応答』すればよいのです。

全力を尽くし、後は「私を気に入れば採用してください」と、若人らしく、爽やかな気分で面接を受ける気持ちが大切となります。フレッシュな気持ちで、明るく、元気、爽やかに面接にチャレンジする気持ちを忘れないでください。

そして若者らしく、小さなことに気にしすぎないで、自分の思ったことをはっきりと相手に伝えるように心がけてください。

返答の内容が間違っているかもしれないという、どうしても言葉に自信が無くなってしまいがちです。ですが、採用担当者はそれよりもあなたの話方や自信の有無を見ているので、堂々とした態度をとるようにしてください。

○面接以外でも言葉遣いは気をつける

転職活動・就職活動において、応募企業に電話連絡を入れたり、面接試験で面接官の質問に答えるときなどにも言葉遣いは気をつけてください。

応募企業の社員と接触する機会があるため、言葉遣いに注意を払うことを忘れないでください。

普段から使用している言葉が正しい日本語であれば問題はないでしょうが、慣例的に使っている言葉が必ずしも正しい日本語とは限りません。むしろ現在では正しい日本語を使うほうが難しいかもしれません。

例えば、「わたし的にこう思ういます」「マジすごいです」「やばくないですか」などの表現は決して使わないようにしてください。

現代の若者が使う言葉の中には、普段はそれほど違和感が無くても、年配の方にとっては非常に耳障りであったりすることがよくあります。

「わたし的には～」のほうは、その言葉がなくても意味が通じますので、不要な言葉になります。

またヤバイなどの表現も適切ではありませんし、このような造語は普段から意識して使わないように心がけてください。

言葉遣いに違和感を感じる面接官は少なくありませんので、面接のときには普段以上に言葉遣いを意識して注意してください。

○最低限の敬語を使えるようにする

面接の場は企業の最低限のビジネスマナーを見られる場でもあるのです。

そのようなときに、どうしても最低限の敬語を使えないと、不利に見られてしまいます。

企業でよく使う敬語に関してはそれほど多くはないので、しっかりと使い方などを把握しておくことにしましょう。

企業で使う敬語は面接だけではなく就職してからも使うことになるので、一度覚えておいて損の無いことといえます。

敬語の使い方は、各種テキストが販売されているので参考にしてみてください。

敬語を身につける最大の近道は普段から使い続けてみることです。

知り合いとの会話で使うには少し恥ずかしいものがありますが、練習だと思って使ってみるようにならしましょう。

また、模擬面接などで、分からないことがあったら積極的に聞いて、正しい敬語の使い方を確認してください。

けっして敬語は難しいものではなく、何パターンか理解してしまえば後は自然と話せるようになるので、どれだけ場数をこなすかにかかっているといつてよいでしょう。

圧迫面接でもあわてずに！

こんな返答が有効です。

○圧迫面接とは何か？

圧迫面接とは、一般に質問の回答に対して、採用担当者が次々と追い詰めるような質問を繰り返す面接手法のことです。

具体的な例としてはあなたが応募した企業の志望動機について「新しい分野に挑戦できる環境があるから」と答えたとします。

そうすると、「具体的にはどのような分野に挑戦したいのか？」「挑戦して失敗したらどうするのか？」などプレッシャーになる質問をしてくることです。

ですが、そのような質問に対してもあわてることなく、まずは自分の出来ることをしっかりと踏まえたうえで答えてください。

どうしても出来ないことや経験の無いことをできるように答えてしまうと、後でさらに追求されて困ってしまうことになります。

実は圧迫面接とはこのように困難な状況に陥ったときにどのように振舞うかを見られているということでもあるのです。

そこで困り果ててないもできないのか、いい加減な答えをしてしまうなどは、非常に評価を悪くしてしまいます。

ですが、真摯に自分の出来ることとに対してしっかりと答えているかぎり、相手に対しても誠意が伝わるので心がけるようにしてください。

○圧迫面接で企業側が狙っていること

圧迫面接で企業側が求めているのは、学生が困難な質問に対してどのような答えをするかを確認することが目的なのです。

これは、困難な質問であればこそ、どのように答えるかが重要になってくることであり、常識的な回答が出来るかどうかを確認しています。

質問のポイントとしては以下の5つが挙げられます。

- ・具体的な説明が求められる
- ・短く要約させられる
- ・あいまいな点を指摘させられる
- ・関連する質問が出される
- ・当事者としての考えを聞かされる

などがあります。

これらについても、よく質問を理解した上で自分が答えられることを誠意を持って答える限りそれほど恐れることはありません。

ここでうそや大げさなことで言いつくろうと、後でどうしても追及されたときに困ってしまうので、会話のキャッチボールが出来るように気をつけてください。

○圧迫面接の成績に関する質問

圧迫面接では成績やあなたの経験についてよくなかった点などがよく質問されることになります。

例えば採用担当者が「成績が良くない」ことを質問で挙げたとします。

ここであなたが成績が良くなかったことを取り繕おうとすると、逆に墓穴を掘ってしまい悪い印象を与えかねないのです。それよりも正直になぜ、成績が良くなかったのかを話すほうがよっぽど自然といえます。

「大学時代はサークル活動に全力を注いでいました」「勉強は苦手だったので、出来る限り一生懸命して単位だけはしっかり取れるようにしていました」など堂々と答えることです。

結論を先に話し、後から理由を付け加えるロジカルトークを心掛けることも有効です。

言葉の選び方、声の大きさ、話すスピード、視線の配り方などにも気をつけてください。

「大学の成績が良くない面接志望者」には頻出の圧迫質問です。

大学の成績が良くないことを責めているのではなく「感情をコントロールしているか」を試しているのです。

この質問に対しては、素直に認め、追加質問で学生時代は何をしていたかを尋ねられた場合には、大学時代に力を注いだ内容を述べて自己PRにつなげてください。

○圧迫面接のよくある質問

圧迫面接にはよく行われる質問がありますが、これはある程度あらかじめ答えを用意しておくことができます。

主に自分にとってあまり質問されたくないことが追及されることがほとんどですので、あらかじめ履歴書などで確認しておけば回答に困ることはありません。

具体的な質問例には

- ・ 困難をどうやって乗り越えてきたか
- ・ どんな工夫や改善をしてきたか
- ・ どうやって仕事に生かすのか
- ・ いったい何ができるのか
- ・ いまの自分に何が足りないと感じるか

などが挙げられます。

これらは普通の面接でもよく質問されることであり、その追及が通常よりも深くなるということなのです。

それに対して必要以上にプレッシャーを感じる必要はなく、出来るかぎりポジティブに答えを用意することが大切です。

どうしても圧迫質問に対してはネガティブになりがちですが、そうなってしまうと逆にさらに追求されて返答に窮してしまうことにつながるので注意してください。

○圧迫面接にめげないことが大切

どうしても圧迫面接を受けてしまうと、精神的に追い詰められてしまいます。

ですが、相手の採用担当者もあなたを落とすためだけにそのような質問をしているわけではありません。

それよりも自分のよい点や自分がこれからしたいことなど、自己PRを少しでも出来るように心がけてください。

圧迫質問に対してどうしても消極的な姿勢になると、さらに質問を続けられてしまうことがあります。

それよりも質問に対して、自分に非があったり、本当に正しい指摘であればまずは素直に認めることです。

そのうえで、自分には何が出来て、将来はどのような方向性に進みたいかなど、未来に対する展望を述べてください。

自分の意見を堂々といえることで、圧迫面接はそれほど恐れることはないと言ってよいでしょう。

質問の一つなのですから、それがすぐに評価を下げるとは思わずにトータルで面接を捉えるようにしてください。

自分にとって不都合な質問に対しても正直に答えた上で、あなた自身の魅力や能力をしっかりと伝えるように心がけてください。

あとがき

就活 についてのテクニック、ノウハウについて皆さんはどれだけ知らないことがありましたか？ 意外とマナーや、面接時の採用担当者の気持ちなど気づきづらいものです。これらのことをしっかりと理解したなら、即実践に移してください。

ぐずぐずしているとすぐにでもあなたの周りのライバル達が行動していると考えてください。

実は就職するということは、すなわち企業で働くことと同じことなのです。現在は就職してからプロ意識を持つのではなくて、就職する前からプロ意識を持って行動することが必要となってきます。

それだけに、就活でもしっかりとやるべきことをやってきた人間が評価されますし、運まかせであればそれだけ成功の確率は下がってしまいます。

意外とマニュアルを見れば、自分が出来ることが多かったはずですが、これらをしっかりとやりきることはあなた自身の意思にかかっているのです。先が見えない就職という不安に対して、どれだけ自分を高められるか— 将来就職して働く場合には、実は就活と同じような、いやもっと厳しい現実と直面することになるのです。そして、今、頑張った経験というのは、確実に就職してからも役立つことなのです。

就活に一番必要なのは「諦めないチャレンジ精神」です。失敗してめげるヒマがあるのであれば、次に向かってがむしゃらに突き進んでください。そして、自分が納得する場所で働くことで本当の幸せとは何か、考えてみてください。